



濃家裏抄係
上



特別
イ 4
3163
107(1)



貴
14
3163
107(8)



舞濃乃家部や水添の上乃也

やぶやふみせりふもなるとつ
あまじい山路の末よきづね

新勅撰集

春更上

張一八

正三位家隆

いと室のむるもなるとつ
あまじい山路の末よきづね
あまじい山路の末よきづね
あまじい山路の末よきづね
あまじい山路の末よきづね

○此段の末の字は海の上の字

きんごうもふんがれきや。よきゆもきんごうもふんがれきや。
よきゆもきんごうもふんがれきや。よきゆもきんごうもふんがれきや。

君の歌よ

後京極権政若吉政大

後京極権政若吉政大
君の歌よ
きんごうもふんがれきや。よきゆもきんごうもふんがれきや。
よきゆもきんごうもふんがれきや。よきゆもきんごうもふんがれきや。

白鳥冠吉俊成

梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成

梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成

山家権院近衛俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成
梅も芳もむらさきも。白鳥冠吉俊成

春哥下

建曆二年春詩哥を合巻し流るる山居春曙

持中初之定歌

夕もあらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
乃落ふ山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙

あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙
あらしのさびしき山居の春曙

又十三年三月廿一日 後京極権政

かゝる室の御代も... 伏見の御代も... 御代も... 御代も... 御代も... 御代も... 御代も... 御代も... 御代も... 御代も...

関海花

あまの... 二の... 三の...

以奇あま... 三つ...

海あまの... 西行法師

花のうら

花のうら... 二の夕菊...

冬多儀雑歌

冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀... 冬多儀...

花のうら

花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら... 花のうら...

後家極接改

花のしるしのあはれをうらむひておぼふらばしるしのあはれ
下の相ぞきまじし。あはれしむらび。おぼふらばしるしのあはれ
てんし。おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。

おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。

おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。

おぼふらばしるしのあはれ

おぼふらばしるしのあはれ

おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。
おぼふらばしるしのあはれ。おぼふらばしるしのあはれ。

石橋と雪と花ついでにやとる解にやと
まぐさのまのまの同
ひやうのまのまの

ゆゑの事此神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

夏二并

建保六年夏合小夏事

難經の

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

とてふなりぬ... 此の神を祀りて...

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

後法... 此の神を祀りて...

後集の

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

後集極抄改

此の神を祀りて... 此の神を祀りて... 此の神を祀りて...

〇此の神を祀りて...

〇七

秋寄上

秋寄上

源具親

ふたもとのたもつていふるをいふる
あきとてしむる初めをいふる
あきとてしむる初めをいふる

中流のころをいふる

字

とるおとがかりのころをいふる
源具親改方たふし
あきとてしむる初めをいふる

あきとてしむる初めをいふる

入道

字

松のうをいふる
あきとてしむる初めをいふる
あきとてしむる初めをいふる

和歌

あきとてしむる初めをいふる

秋寄上

あきとてしむる初めをいふる
あきとてしむる初めをいふる
あきとてしむる初めをいふる

櫻をへたせんやまのこやまよみ人のまよ

Handwritten text in a cursive script, likely a song or poem, consisting of several lines.

羈旅一哥

旅のこころを

離れ

Main body of handwritten text in cursive script, enclosed in a rectangular border.

Second main body of handwritten text in cursive script, enclosed in a rectangular border.

旅歌一

旅のこころを

離れ

Main body of handwritten text in cursive script, enclosed in a rectangular border.


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

恋舟二

建保五年夏庚申卯久恋

定在久

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

雅雅

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a fluid, connected style.

Handwritten text, possibly a signature or a specific phrase, centered on the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page or as a separate entry.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page or as a separate entry.

三十一

おのれ

後京極様改

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page or as a separate entry.



操衣如凡多強まじ外 一井井武にるるるるるるる  
物二百之衣をさるるるるるるるるるるるるるるるる  
よれり。 此の白き物にさるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
回しるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

花——るるる

物に物に

ちぢるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

思ふるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

中保六年三月廿五日

るるるる

るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる  
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

るるるるる

るるるるる

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a short story, written on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a short story, written on the left page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a short story, written on the right page of the manuscript.

百三十四 不通意

法系極極改

うつろひし心のあはれをさへし人のあはれをさへし  
まをれし心をさへし人のあはれをさへし  
あはれし心をさへし人のあはれをさへし

雜考一

鉄——らん

如法法師

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

具定の母

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

藤原信実の母

あはれし心をさへし人のあはれをさへし

○天はるるをさへし人のあはれをさへし

〇三十一

二三のふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを

晩述懐

春望

いへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを

續後撰集

春望

中道保平春百首

順徳院抄

いへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを

春望

いへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを  
かきし。 三つふにそとへいへんかきしめしむるはひきとていふを

春日のしほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり

平白草中

歌一とら

後白河院抄製

正治五年三月廿一日  
正治五年三月廿一日  
正治五年三月廿一日  
正治五年三月廿一日

しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり

友の花

如教法師

しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり

大の系廣城のしほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり  
しほりさかきつる花もよほりしほりさかきつる花もよほり



名取川の目取はあつた花をさきついでに深いのつとれ  
多しきし詞をたし。 曲をあつたにせいの  
まじりあつたにせいの。 あつたにせいのまじりあつたに  
せいの。 名取川の流るるまじりあつたにせいの  
あつたにせいのまじりあつたにせいの

名取の正名はまじりあつたにせいの

上流の流るる

まじりあつたにせいのまじりあつたにせいの  
あつたにせいのまじりあつたにせいの  
まじりあつたにせいの

ふみまのまじりあつたにせいの

後之我ち改ち

あつたにせいのまじりあつたにせいの  
あつたにせいのまじりあつたにせいの

ふみまのまじりあつたにせいの

あつたにせいのまじりあつたにせいの  
あつたにせいのまじりあつたにせいの

まじりあつたにせいの

藤原信実の

あつたにせいのまじりあつたにせいの  
あつたにせいのまじりあつたにせいの  
あつたにせいのまじりあつたにせいの

その昔の川流の跡を尋ねて見れば

河津の

川流の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば  
河津の跡を尋ねて見れば

春のささるる

春のささるる

あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば

其の

跡を尋ねて見れば

跡を尋ねて見れば

あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば  
あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば

六月後

六月後

あつた昔の川流の跡を尋ねて見れば

鳴瀬の岸のほとけあはれ川より。 延命のほとけあはれ川より。  
あふの白かへしきかへしき。

秋新上

初秋

後集極指改

秋のきよふらりり秋のきよし秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし

あふの白かへしきかへしき  
あふの白かへしきかへしき  
あふの白かへしきかへしき

いそよよいそよよいそよよ

いそよよいそよよいそよよ

大衆のいそよよ

あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし

あふの白かへしきかへしき

あふの白かへしきかへしき

あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし  
あふの白かへしきかへしき。 秋のきよし秋のきよし秋のきよし

あふの白かへしきかへしき

あふの白かへしきかへしき

今より秋の巻見やいづちむらさふをたけしむらさ

原家信

まはせりつとばあきすのちひふもたを酒おりや秋乃々言

建暦二年松尾社言合小初秋風

たふ玉のころしはちたけりくよあきと秋そそ葉入りとを

あきとたし初めとてし。しあきふ毎月をうらむとや今

年よはせぬとふとたて葉の上月ふ海の敷りそとあきと

や。トの年よとてあきと秋のやとあきとあきと

建暦三年あきとあきと秋風

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

建暦二年秋十言合小秋風

今より秋の巻見やいづちむらさふをたけしむらさ

はあハ葉面を照かえちとふ秋葉の下葉をづく今よりや独あ

人のいづとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

おはようございます。本日はお天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。

秋意

お秋の

ちやうどお天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。

秋意

お秋の

ちやうどお天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。  
お天気がいいですね。お過ごしはいかがでしょうか。

秋意

お秋の



西國の事は昔の政は長久世の事なり秋尋

家傳の

秋尋の事は昔の政は長久世の事なり秋尋の川をカ  
有る事の中なり

如法法師

心は秋尋の事は昔の政は長久世の事なり秋尋の川をカ  
有る事の中なり

秋尋の事は昔の政は長久世の事なり秋尋の川をカ

心は秋尋の中なり

後京極権政

秋尋の事は昔の政は長久世の事なり秋尋の川をカ

秋尋下

心は秋尋の中なり

二條院權政

秋尋の事は昔の政は長久世の事なり秋尋の川をカ  
有る事の中なり

心は秋尋の中なり

順徳院権政

元紫御供物

一 洗菜 神酒

一 野菜 方根

一 時菜物

一 菜方根

一 海菜類

一 鹽水

Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, written in a cursive script.

Handwritten text, possibly a signature or a specific title, located in the middle of the page.

Handwritten text in vertical columns, continuing the document or letter.

Handwritten text in vertical columns, continuing the document or letter.



物白と親びし二の分を切し。 四乃  
 白根をいひまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根

物白

乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根

物白

實をいひまじる根

乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根  
 乃ちまじる事。 實をいひまじる根

釈教二行

化城喻不

八條院を念

いそぎたたりしころさるわのまもつらけあへんしなとて  
新古今の流き流がし。

恋歌一

ふりやせ恋

後集の女

きくちしむるのこころをそれぞらむかおひのこころをそ  
らむ三三やうをそれぞらむかおひのこころをそ

くちしむるのこころをそれぞらむかおひのこころをそ  
らむ三三やうをそれぞらむかおひのこころをそ  
らむ三三やうをそれぞらむかおひのこころをそ  
らむ三三やうをそれぞらむかおひのこころをそ  
らむ三三やうをそれぞらむかおひのこころをそ  
らむ三三やうをそれぞらむかおひのこころをそ

恋歌二

不き世恋

後集の女

思ひ移りては外に小舟を渡りてかゝる舟に乗りし中、  
さうせうとていふくしきしうとて道にかけの路に海がわし  
このまじりまふ小舟のゆきし幻術のまじりまふしつ路  
夏幻やういふくしき小舟あり。

道物法親王とまふしき小舟の燈臺

宗室傳

たぐひなきやういふくしき舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路  
初白とたぐひなきやういふくしき舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路  
いふくしき舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路  
いふくしき舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路

舟の浦にいふくしき舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路  
いふくしき舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路

正法百三十八卷の舟のまじりまふしつ路

久しきの舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路  
舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路  
舟のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路のまじりまふしつ路

意三

秋——白

小舟伝

中もらもらんも世世わづれひ命もやまぬと志づしんくはくも  
初白ふぬいとくふくくもくも死もあやめぬもくはくはく  
志づしんくも死もあやめぬもくはくはくはくはくはくはく  
もくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
もくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
もくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

久安百そま中ふ

後集

あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
後集

並集

あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく

清のきつゆふもあやめぬもくはくはくはくはくはくはく  
ずづもくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく

並集

あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく  
あはれいよふゆのふまのまづもくはくはくはくはくはくはく

三三三

三三三

おのれ日教のつらき事なればとて人へていふ事あるは  
ふしぎなる事なりとていふ事あるは

三三三

三三三

三三三

おのれ日教のつらき事なればとて人へていふ事あるは  
ふしぎなる事なりとていふ事あるは

おのれ日教のつらき事なればとて人へていふ事あるは  
ふしぎなる事なりとていふ事あるは

おんこゝろに神の御心ぞかゝるべし。 神の御心  
橋の縁に。 かゝるべし。

あしはる小舟をばやまざりあまをばるるもまじきとて海にまはれ  
一その歌よりにしとてあまをばるるもまじきとて海にまはれ

歌一八八

土清院法製

海にまはれし神の御心ぞかゝるべし。 神の御心  
いかにたのむればかゝるべし。 神の御心

恋まの甲お

定家

おんこゝろに神の御心ぞかゝるべし。 神の御心  
おんこゝろに神の御心ぞかゝるべし。 神の御心

ま。 おんこゝろに神の御心ぞかゝるべし。 神の御心  
ま。 神の御心ぞかゝるべし。 神の御心  
いかにたのむればかゝるべし。 神の御心  
おんこゝろに神の御心ぞかゝるべし。 神の御心

急ぎ下

恨意

宗隆

此を以て今に書くは、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、  
宗隆の恨意を以て、

龍乳中

致し以て

後を龍院法製

人々を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、  
龍乳中の恨意を以て、

龍乳下







